

沿岸部でのリスク認識と 対応についての調査

河北新報・東北大学共同アンケート

河北新報社 古関良行

東北大学災害制御研究センター 今村文彦，佐藤翔輔

東北大学による東日本大震災3ヶ月後緊急報告会
2011年6月10日，仙台国際センター



河北新報社・東北大学共同アンケート

宮城沿岸 住民・作業従事者・自治体アンケート

• 趣旨

- 今後もアウターライズ地震などの余震により、津波が発生する可能性がある。
- 梅雨や台風など雨が多くなる時期を迎える。
- 宮城県沿岸部では、防潮堤や防災無線が壊れたところが多い。
- 沿岸部の住民やボランティア、作業員の行動と、津波や水害への備えは。



調査の概要（5月中旬）

	住民	作業従事者	自治体
回収数	221	62	15
有効回答数	211	60	15
有効回答率	95.5%	96.8%	100.0%

調査 対象 地域	仙台市	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	石巻市	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	気仙沼市	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	東松島市		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	塩釜市			<input type="radio"/>
	多賀城市			<input type="radio"/>
	名取市			<input type="radio"/>
	岩沼市			<input type="radio"/>
	南三陸町	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	女川町	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	松島町			<input type="radio"/>
	利府町			<input type="radio"/>
	亘理町	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
	山元町	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	七ヶ浜町			<input type="radio"/>





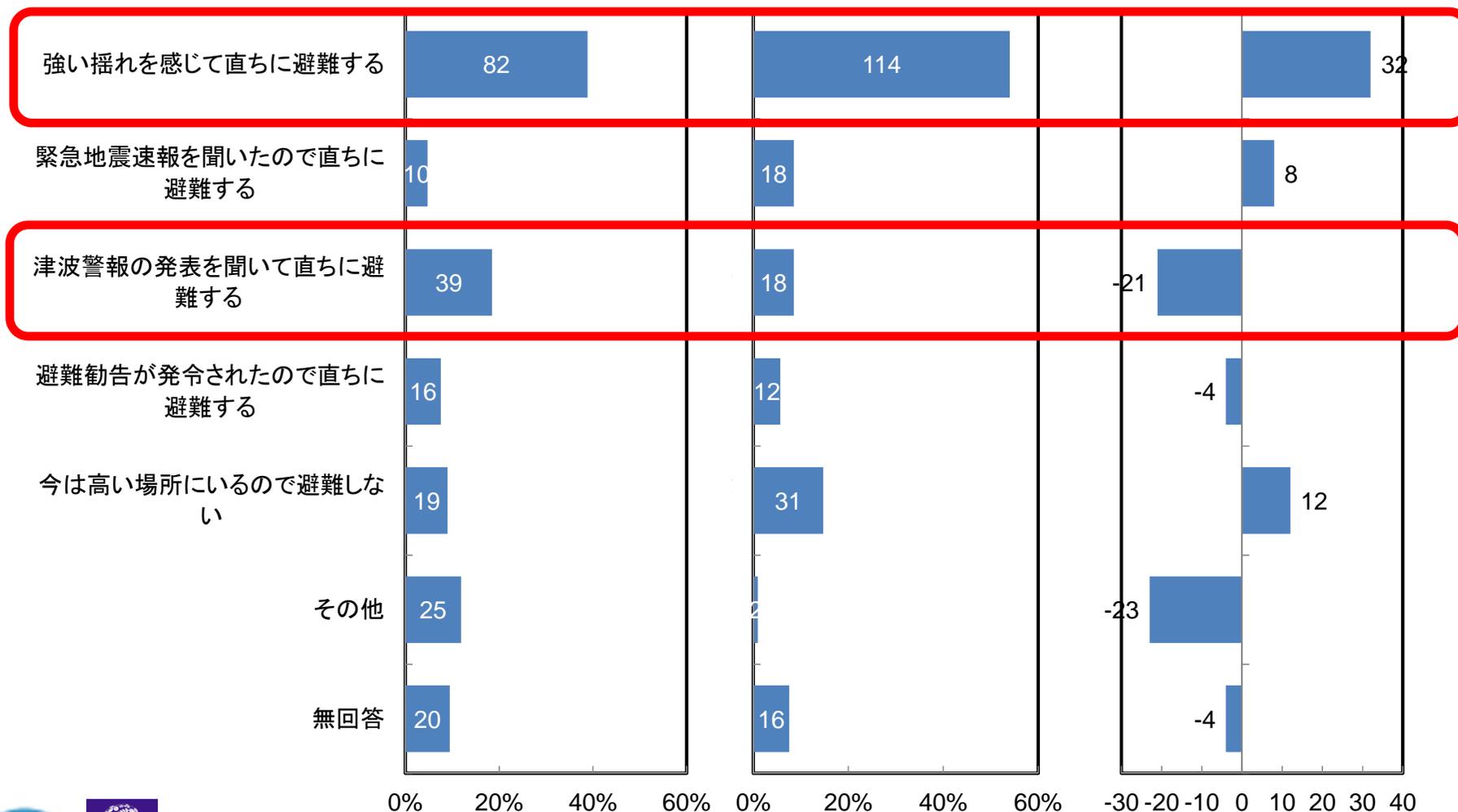
各回答の比較など



地震後の避難行動方針の変化

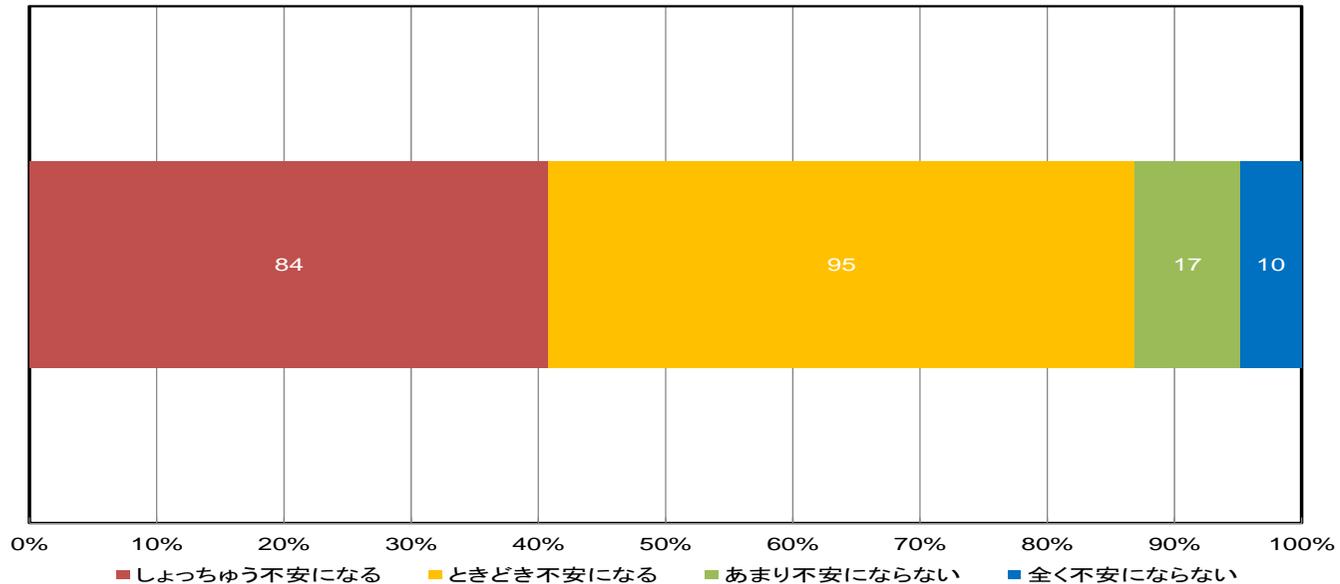
住民：問4と問5

地震発生日（実際） 今後（方針） 変化（差分）

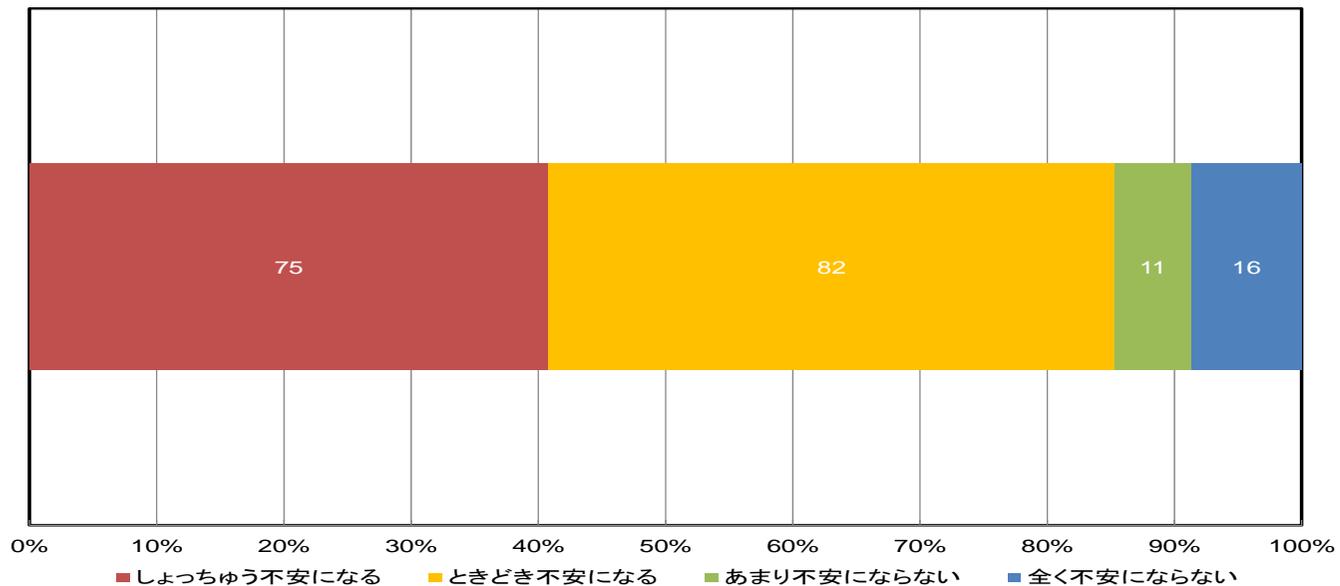


水に対する不安, 住民：問3と問7

余震による津波

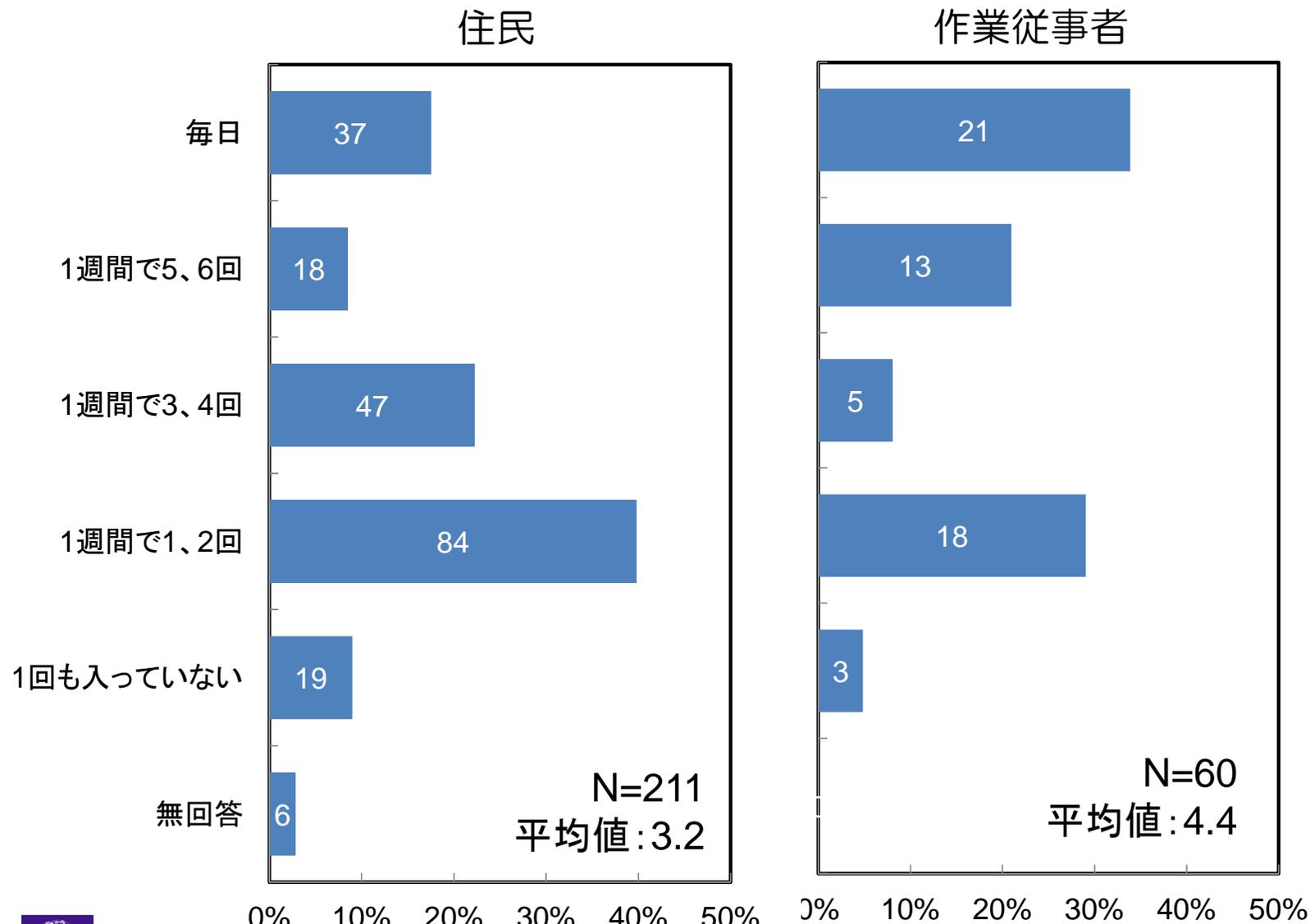


梅雨や台風による浸水



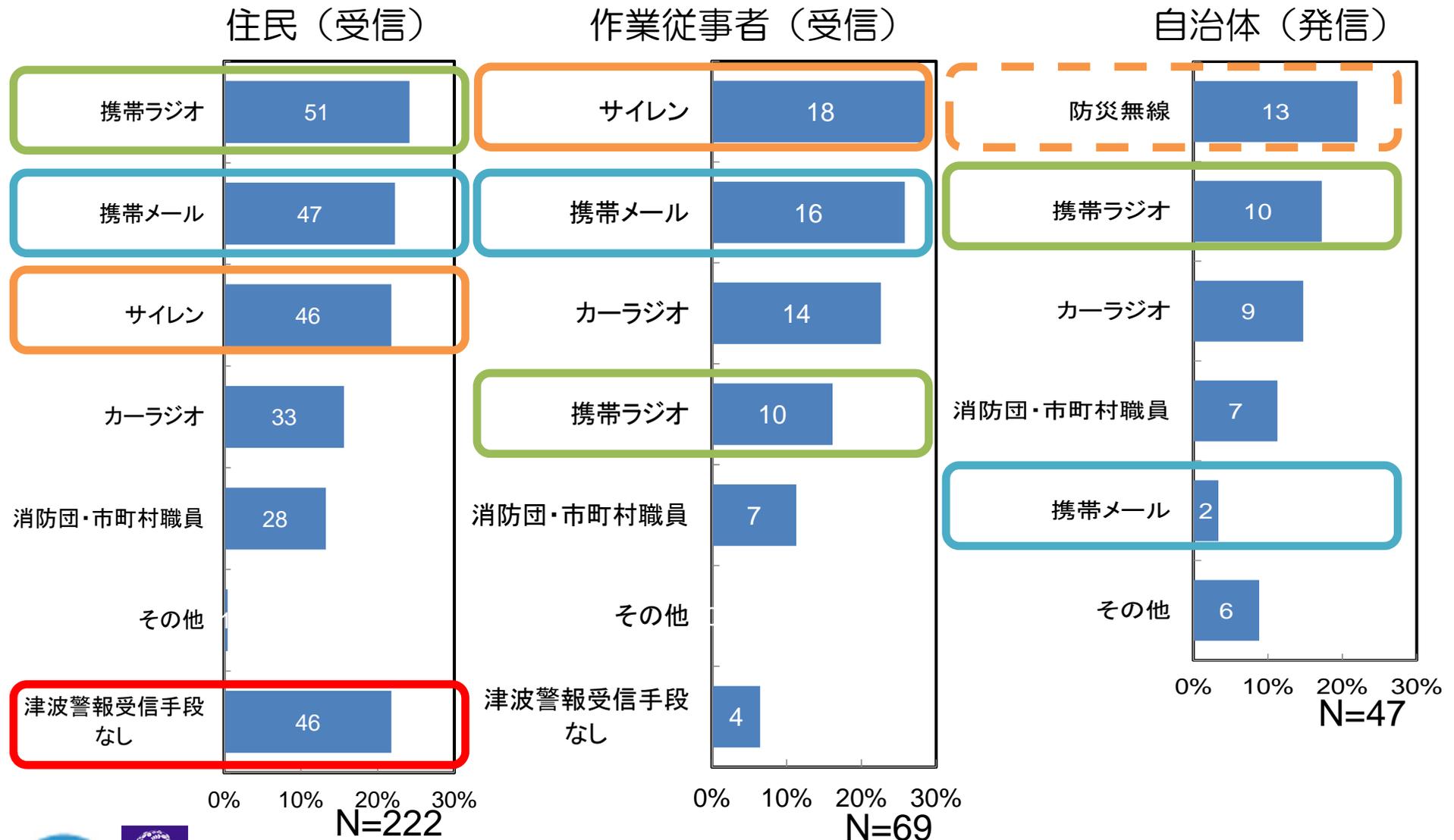
被害を受けた地域内に出向く頻度

住民：問6， 従事者：問1



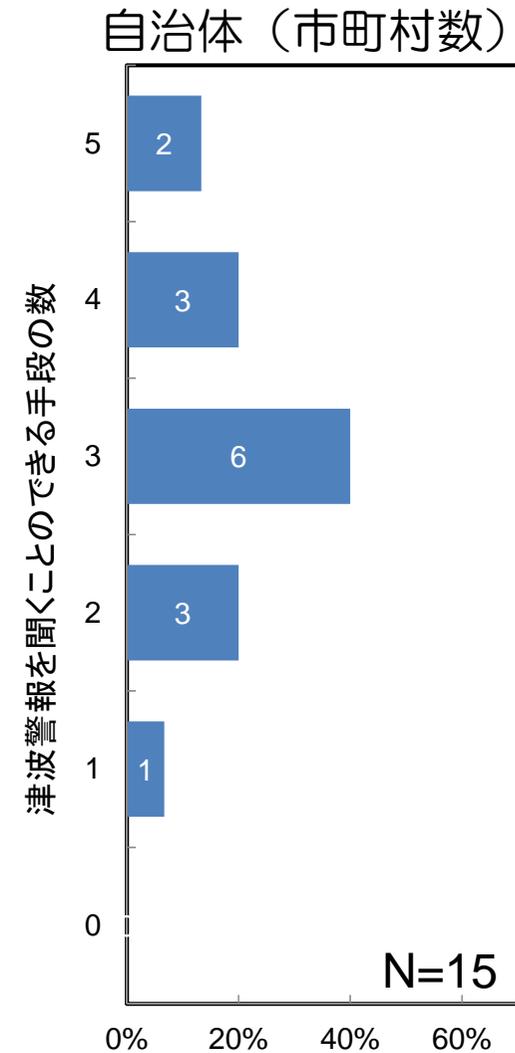
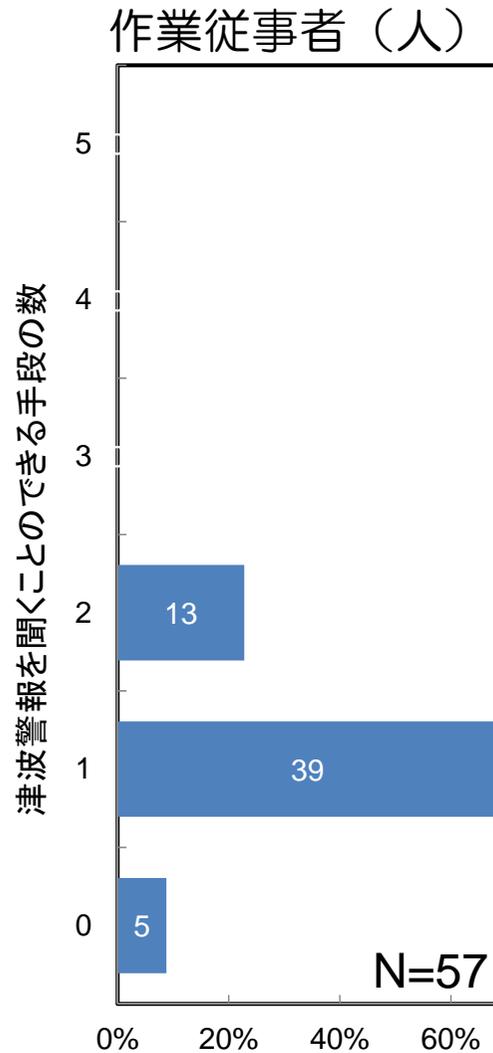
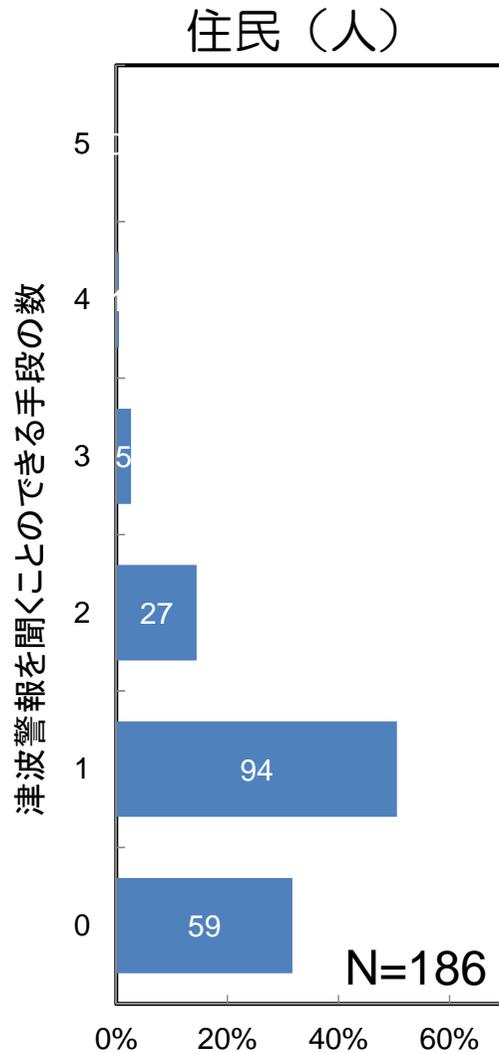
被災地に入る際の津波警報の受信・発信手段

住民：付問6-1， 作業従事者：問2， 自治体：問1



津波警報を聞くことのできる手段の数

住民：付問6-1， 作業従事者：問2， 自治体：問1



※「0」には無回答を含む

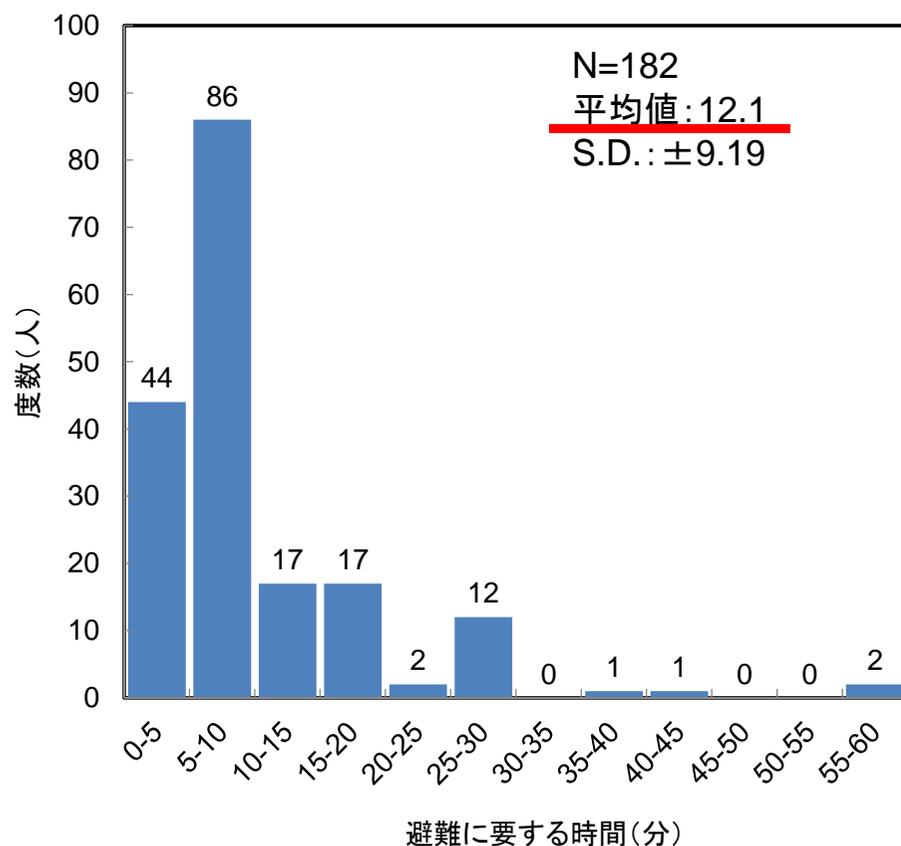


河北新報社・東北大学共同アンケート

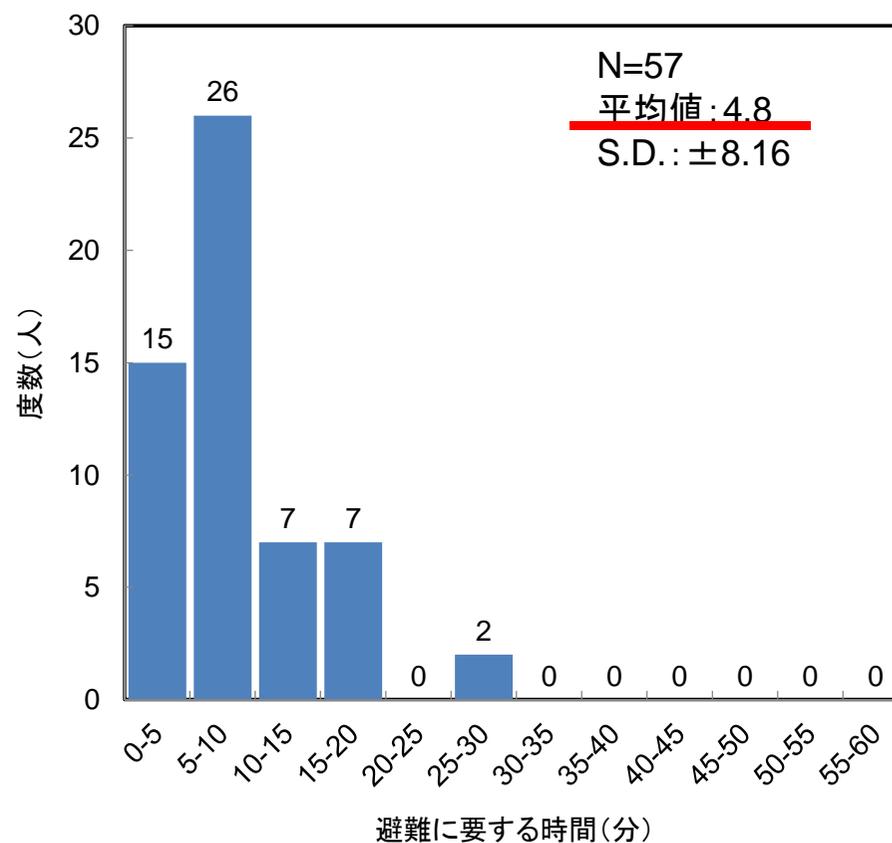
避難に要する時間

住民：付問6-2， 作業従事者：問3

住民



作業従事者



宮城沿岸 住民・作業従事者・自治体アンケート

・まとめ

- 頻繁に津波の浸水域を訪れる住民が半数を占めた。
- 2割を超える住民は防災情報を得る手段を持っていない。
- 携帯メールでの防災情報の伝達では、受信側の住民・作業員と、発信側の自治体とギャップがある。
- 自治体側は、国や県に防災無線の整備などへの支援、大学に余震発生の可能性など専門的な情報の発信を求めている。

